

野ネズミの

駆除と殺そ剤

北海道防疫サービス

高 安 知 彦

終戦前後の混乱期には、家の中や物置にはイモやカボチャがつまれ、下水はたれ流しといったドブネズミらの生活最適条件にありました。しかし最近ではこれらが次第に整備されて、いわゆる「家ネズミ」の害は一般家庭ではあまり多くなくなって来たようです。

けれどもゴミ埋立地や農耕地・山林などでの「野ネズミ」害は、あいかわらず各地で続出しております。

これらのネズミ害は、環境衛生上のみならず産業上でも大きな問題で、ニュースで知らされるのは氷山の一角にすぎないように感ぜられます。

いま一度、ネズミ害の大きさに注目してみてください。

ここではいわゆる「野ネズミ」の害を中心に、その防除法、殺そ剤の使い方についてふれてみましょう。

ネズミの種類と被害

ネズミの被害を見つけた場合、どんな種類のネズミが害をしたのかを知ることがまず大切です。種類によりネズミの生態が違い、駆除の仕方も変わることがあるからです。

ネズミの種類を知るには、ハジキワナ（パチンコ式ワナ）や金アミなどの生どりワナで捕えてみるのが普通ですが、ネズミの残したフンの大きさや形で見わけることも、なれるとできます。

普通、ネズミの種類を「野ネズミ」と「家ネズミ」に区別していますが、これはその時住んでいた場所により便宜的に言っているものです。

主なネズミの被害には次のようなものがあります。

ハタネズミ

本州方面で農・林業面での被害を出しているのは、このハタネズミとドブネズミによるものが大部分です。

山林から畠、牧草地までに広く生息していて、その害は樹木（スギ、ヒノキ、アカマツ、クワ、チャなど）や畠作物（根菜、果菜類）、牧草などにおよびます。

この種類はいつでも数が多い訳ではありませんが、場所によっては時折り大発生することがあり（最近では中国地方などで）、山の人工造林木や谷間の畠作物が全滅することもあります。

スミスネズミ

この種類は四国・九州に多く住み、時々大発生して人工造林木に大害を発生することがあります。

ドブネズミ

家屋を中心にその附近の野外にも住み（夏は主に野外、冬は家屋内に）、人家や倉庫内ではもちろん、イネなどの作物やニワトリ、カイコ、養魚、乾魚などにも害をします。四国宇和島附近や東京湾夢の島での大発生は有名です。

クマネズミ

この種類は主に家屋や倉庫内に住んで害をし、野外にはほとんど出ません。

ハツカネズミ

これはご存知のように小さいネズミで、よく家屋の小さなすき間からでも侵入して害を出しますが、農家などを中心に畠作物にも被害を出します。

その他の野ネズミ

アカネズミやエゾヤチネズミは、山間や山林、ササ地ぞいの畠で作物をかじることもあります。被害量としてはさほど大きくないようです。ただエゾヤチネズミは北海道で冬季間に造林木に大害を発生し、山林・ササ地・草地ぞいの果樹・花木をもかじって大害を出すこともありますので注意を要します。

ネズミを駆除する前に

ネズミがどの位の数で住んでいるのか

ネズミの害が出てから大さわぎするのではなく、害の出る前に手を打っておきたいものです。

これには、毎年被害が多少とも発生するような農耕地や山林では年に3回位(春・夏・秋)、ネズミ数の調査(生息数調査と言います)をやって、増加傾向を早目にキャッチすることが望まれます。

北海道の山林では、過去20年にわたりこの調査網が国・道・民有林の共同により整備され、1,000か所以上の調査地が置かれており、毎年のエゾヤチネズミの発生量と増加量の予察が行なわれております。

この調査にはハジキワナを普通使います。草地や山林では、目的対象地とその周辺地に10mおきのゴバン目(5×10の50、あるいは5×5の25か所の)のワナ点をもった調査地を置き、3日間ぐらい連続してネズミを捕えて調査すると、0.5haあるいは0.25haの面積内のネズミ生息数がわかります。(図1参照)

農耕地では10aを標準調査地とし、その内に5mおきぐらいのゴバン目で調査するのが普通です。

このような調査によると、住んでいるネズミを駆除せず放置した場合、第1表のような被害が発生したことがあります。

住み場所の整理

ネズミ退治と言え、すぐ殺そ剤、毒団子というところが頭にうかびますが、その前にネズミが住みにくい環境に整備することは必要なことです。

山林や島、水田などでは、その場所はもちろん

第1表

場 所	ネズミの種類、数 (頭/面積)	作 物	被 害 量
島 根 県	ドブネズミ 13~14/10a	水 稲	株率で 7%
愛 媛 県	ドブネズミ 最高 10/10a	サ ツ マ イ モ	面積で 15~30%
長 野 県	ドブハタ 16/10a	ジャガイモ	5% (約2,000円)
千 葉 県	アカネズミ 6/10a	ナンキンマメ	株率で 31% (約3,000円)
島 根 県	ハタネズミ 20/10a	ニ ン ジ ン	81.3%
		ハ ク サ イ	53.5%
		ホウレンソウ	41.1%
		ダ イ コ ン	9.3%
〃	アカネズミ 10/10a	チ ュ ー リ ッ プ	1~3.2%
	ハタネズミ		約4,000~15,000円
北 海 道	エゾヤチネズミ 70/ha	カ ラ マ ツ	被害本数 50%以上
	50/ha		30%前後
	20/ha		10%以下

北海道の例以外は、三坂(1967)による。

周辺も含めて雑草類を取り除き、ネズミの巣穴を見つけたらうずめるなど、住み場、かくれ場所をなくすることが是非必要です。家屋の内外で残飯やごみくずなどをきれいに始末して、ネズミの食糧源をたつことも同様です。

つまり、ネズミが住みやすい環境のままでは、殺そ剤を使っても効果があがらず、また一時的に効果があっても、しばらくすればその周辺から新しくネズミが移動・侵入してきて、以前と同様に住みついてしまうことになるからです。

殺そ剤とはどんな薬剤か

殺そ剤は「毒餌」であること

殺そ剤のほとんどが殺虫剤などと一番違っている点は、殺そ剤が「毒餌」であることです。殺そ剤に含まれる毒・劇物がどんなによくきくものでも、「餌」としてネズミに嫌われては効果が発揮されません。

殺そ剤の毒・劇物以外の餌の部分を「基剤」といいますが、この主原料は小麦粉などの穀粉からなります。

そのため、殺そ剤は製造後の日数がたち古くなりますと、穀粉が次第に変質して餌としての価値は低下し、ネズミの食いは悪くなってゆきます。自家用として毒団子を調製した場合はもちろん、一般市販の固形製品でもなるべく新しいうちに使用した方が有効です。

また、ネズミの種類や環境によって「餌」の好

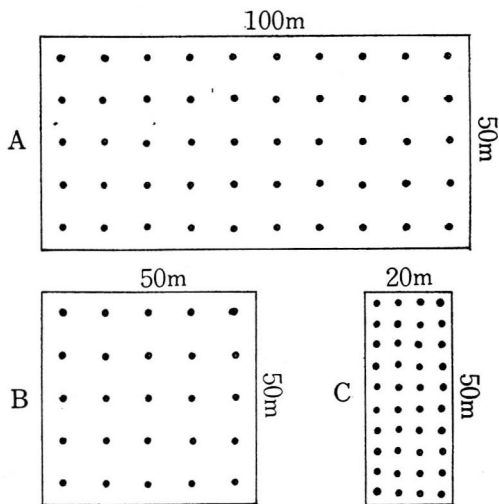


図 1 野ネズミ生息数調査のワナ配置例

- A : 10 m 間隔で 5×10 の 0.5 ha
- B : 〃 5×5 の 0.25 ha
- C : 5 m 間隔で 4×10 の 10 a

みがちがいます。

ハタネズミやエゾヤチネズミなどの完全な野ネズミでは、固形毒餌製造の際に高温で乾燥すると好まれにくくなり、自然乾燥のように生に近い餌の方がより好みます。

家屋附近に住むドブネズミ、クマネズミは、完全な野ネズミと違って残飯などのうまい餌をいつも食べていますので、市販の固形製品はあまり好みません。その場所でネズミが一番好んでいる餌を見つけ、それを基剤にして液・粉剤の殺そ剤を用いて毒餌を自家調製の方が効果的です。ですから、この場合附近に残飯などが放置されていると、毒餌の効果があがらないことになるので、環



リンゴのエゾヤチネズミ害 —北海道長沼町—
(枝・幹の白い部分がかじられている)

境整備の必要があるわけです。

殺そ剤の毒・劇物含有量

殺そ剤に使われる毒・劇物は、ネズミに嫌われないものでなければなりません、どんなに良いものでも、まったく嫌われないものはありません。

ですから、毒・劇物の含有量が多い方が効果的に思われるかもしれませんが、多すぎると嫌われて食べてくれません。むしろ含有量は、ある程度少ない方がよく食べてくれて効果があがります。自家用に調整される場合は、この点に十分に注意して下さい。

また含有量は少ない方が、イヌ・ネコや家畜が誤食しても危険度が少ないことになります。

殺そ剤の種類と性質

殺そ剤にはいろいろな種類がありますが、その性質のみこんで使いわけることが、効果をあげるために重要です。次に、現在使われている殺そ剤の主なものをあげてみましょう。

りん化亜鉛剤

これは、野ネズミ用として一番多く使われています。

りん化亜鉛はネズミに食べられると、胃酸で分解されて「りん化水素」という毒ガスを発生し、これが殺そ効果を示すわけです。

りん化亜鉛は水に溶けませんが、雨露でしめりますと数か月内に分解して無効化します。またこれを食べて死んだネズミをネコやイタチ・キツネなどが食べても2次的にそれらの動物(天敵)が死ぬおそれが少ないと言われ、比較的 안전한殺そ剤で、主に農耕地・山林用です。

致死量は、小形野ネズミ(体重30g前後)で1mg、ドブネズミで5~15mgです。

硫酸タリウム剤

この劇物はネズミの忌避性が少なく、嫌わずに食べられやすい殺そ剤です。ただ、安定性がよく蓄積性があるために、2次的害が出る可能性もありますが、含有量が少なくすむので天敵への影響は少ないと思われます。

致死量は小形野ネズミで0.4~1mg、ドブネズミで3~6mgぐらいです。

